

サンルダムは本当に必要なのか？

サンル川を守る会

去る3月23日、北海道内12の市民団体により、北海道開発局（以下開発局）が示す天塩川水系河川整備計画（案）に対し、これまで挙げてきた疑問や問題点をまとめ、私たちの提言を盛込んだ冊子『サンルダムは本当に必要なのか？～天塩川の治水計画とサンルダム建設計画の問題点～』を発行しました。これは、サンルダム建設計画について唯一の議論の場である、天塩川流域委員会（以下流域委）で、今後の議論の資料に、そして、委員会の席上で説明させていただくことを願い、開発局ならびに流域委へ配布したものです。

これに対し、流域委は開発局に精査を要求、開発局は精査を行うとしながら、一切のデータを示すことなく否定を繰り返す資料『天塩川の河川整備計画に関して寄せられたご意見について』が第14回流域委（5月30日）の中で配布されました。これでは何の精査にも反論にもなっておらず、国民と流域委に対する説明責任を、開発局は全く果たしていないと言わざるを得ません。

このように、サンルダムが抱える多種にわたる問題は何一つ解決に向かうことなく、流域委ではダムありきの議論を押し進めることが懸念されます。幸いにして、天塩川下流域に漁業権を有する北るもい漁業協同組合がダム本体着工に不同意を表明（H17年2月）、開発局は同組合の同意なしに事業はすすめないとし、現在は道道の付け替え工事の着工にとどめられています。

サンルダムは天塩川水系名寄川の支流、サンル川に計画されているダムで、1992年に決定した国直轄の事業（事業者；開発局）です。1）洪水調節 2）流水の正常な維持 3）水道用水 4）発電を建設目的としたこの多目的ダムは、完成予定2008年、当初予算530億円とされ、計画変更が数度なされながら、2005年7月に示された天塩川水系河川整備計画（案）に盛込まれ、現在に至ります。

疑問や問題点は、4つの建設目的それぞれにあり、冊子の中で詳しく述べられていますが、1）の治水面では、サンルダム計画は実現可能性に乏しく、科学的検証に耐え得ないと専門家からも指摘を受けています。また、開発局はサンルダムの必要性について、資産が集中する上流域（名寄、士別）の治水が肝心と繰り返しますが、実際に流下能力が大きく不足し、洪水が起こりやすいのは中下流域であり、サンルダムの効果が薄いことは、開発局の示す天塩川流下能力図からも明らかです。

また、3) や 4) の利水面に関する問題では、その必要とされる根拠について、具体的な数値による検証はなく、流域住民から望まれていることを強調した説明にとどめられています。今年 3 月に実施された総務省の政策評価点検では、旭川に建設された忠別ダム再評価が人口推計過大であると、社会経済の実態を反映していない例として公表されました。サンルダム計画ではこのようなことのないよう、今後の流域委でサンルダムの必要性が事前に検証される事を期待するだけでなく、市民側からも働きかけること必要です。

2) は主に、渇水時の流れの確保から動植物を保全する理由が掲げられています。しかし、ダム建設予定地は道内有数の天然サクラマスが自然産卵を行っており、毎年 1000～3000 尾の親魚が河口よりサンル川を目ざし 200km もの距離を遡上しています。例えば魚道を設置したとしても、ダム建設により遡上が妨げられ、産卵の場の消失による影響は免れません。また、サクラマスの分布域は狭くアジアに限られ、その資源は、稚魚放流数が増やされる努力も虚しく年々減少が続いています。これは、サクラマスの生活史がサケやカラフトマスと比べ複雑で、河川生活に大きく依存することが人工孵化事業を難しくし、天然資源に頼らざるを得ない状況にある表れです。このため、河川環境に大きなダメージを与えるダム建設計画には専門家の意見を取り入れた慎重な議論が望まれます。

私たち市民団体らは、5 月 30 日に国土交通大臣へ、冊子内容について開発局と私たち双方による説明と議論の場を設けることを要望し、サンルダム建設中止を求める署名 13,878 名分を提出しました。私たちの取り組みは、こうした解決に向かわない状況を改善し、実りある議論が生まれるよう、開発局や流域委へ働きかける一方、多くの国民に、この問題を知っていただき、関心を寄せていただくことにも重点を置いています。そして、この取り組みが、大きな世論を生み出すことこそ、天塩川流域住民の方々にも、河川整備計画にとっても、そして何より北海道遺産である魅力ある天塩川を取り巻く自然にとって、後世に誇れるよりよい結果をもたらすはずです。

そのためにも署名活動や取組みに賛同する市民や団体を募り、道内各地でサンルダム問題やサンル川の素晴らしさ、知られていないサクラマス生態を身近に感じていただくイベントを継続しています。多くの皆さまのご理解とご協力、そしてまずは私たちの取り組みへご参加いただき、天塩川の魅力を是非とも実感していただきたくお願い申し上げます。